

埼玉大学大学院に入学された皆さんへ

今年は春の訪れが遅れ、埼玉大学の久保キャンパスはいま桜が満開を迎えています。埼玉大学大学院に入学された皆さん、入学おめでとうございます。

本来なら、平成23(2011)年度埼玉大学大学院入学式を挙げる所ですが、このたびの東日本大震災および現下の諸事情に鑑み、式典を中止することにしました。大学院における皆さんの研究生生活の出発を祝う入学式を中止するという事は、埼玉大学としても残念ではありますが、なにとぞご理解いただくようお願いいたします。

いま、日本は、巨大地震と大津波に加えて原子力発電所の事故が重なるといふ、世界でも類のない非常事態に直面しています。未曾有の震災の犠牲となられた方々には、お悔やみの言葉さえはばかれる思いですし、原発事故については、安全に収束することを待つしかないもどかしさがあります。

今回の大惨事の状況は、科学の限界や人間の力のはかなさを否応なしに感じさせます。広島・長崎・ビキニ環礁での被爆を体験し、世界に対して二度とこのようなことを起こさせないと宣言したこの国、日本で、日本人の手で作った原子力発電所の事故により放射能汚染の恐怖に曝される日が続いているということは、何とも悔しく、悲しいことであります。

しかし、現在直面している問題の解決、さらには今後相当長期間を要するであろう一連の非常事態からの復旧・復興は、やはり、科学の力と合理的な思考によってなされねばなりません。日本における科学者アカデミーである日本学術会議も、3月18日に緊急集会を開き、「社会に対して負う責務の大きさを改めて痛感し、科学の英知を結集して、社会の持続的な安全と生活の質の維持と向上に貢献する決意」を表明しました。

大学院に入学された皆さん。皆さんは、大学院で研究に励み、数年のうちに修士あるいは博士の学位を取得し、さまざまな現場に出て活動していくことになるでしょう。私は、皆さんに、大学院における研究生生活の出発に当たり、今回の大惨事が問いかけていること、その意味を、どうか真剣に考えていただきたいと思います。そして、皆さんが、自然や社会が問いかける課題に真正面から向き合い、素晴らしい研究成果をあげられることを心から期待します。

平成23年4月

埼玉大学長 上井 喜彦